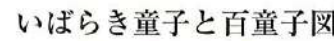


茨木市文化振興財団第161回公演

茨木童子

The image displays a 6x3 grid of 18 face images, illustrating a sequence of transformations. The first column shows the original human faces. The second column shows intermediate sketches with green overlays. The third column shows the final transformed faces with green overlays.



鬼と呼ばれた童子の物語は、時代や地域において様々なヴァリエーションを産み語り継がれています。神出鬼没、時空を駆け巡る童子が、どんな姿でどんなメッセージを携えて21世紀の茨木のまちに立ち顕れるのでしょうか…新しい「茨木童子」物語の誕生です。どうぞご期待ください！

文化力
POWER OF CULTURE



●「百童子図」作画協力：追手門学院大学地域文化創造演習（橋本裕之研究室）受講生他

◆**演目**
「狂言のおはなし」 解説:茂山千三郎(大蔵流狂言師)／橋本裕之(追手門学院大学地域文化創造機構特別教授)
「附子」(ぶす)
新作狂言「茨木童子」 作・演出:茂山千三郎／監修・考証:橋本裕之

◆**出演**
茂山千五郎 茂山千三郎 茂山童司 丸石やすし 松本 薫 井口竜也 鈴木 実 茨木の子どもたち

◆**作・演出**
茂山千三郎(しげやま・せんざぶろう)

3歳の時に「業平餅」の童役で初舞台。その後狂言師の道を歩み、1980年より「花形狂言会」に加わり活動する。2000年には若手狂言師と共に、「心・技・体、教育的古典狂言推進準備研修錬磨の会＝通称TOPPA!」を主催（2005年解散）。企画製作そして出演までを自分たちでおこなう「TOPPA！」を通し、古典狂言の魅力を老若男女問わず普及させる…欲張りな公演を展開。独特の個性溢れる着眼点で、新作狂言の脚本も手掛け、現代の風刺をうまく取り入れたその作品は、室町時代の庶民の中で伸び伸びと生き、創られてきた時代を偲ばせる。代表作に「だんご聲」「都渡り」「薬水」など。他ジャンルの新旧芸術との交流を試み演出家としても活躍。演出デビュー作ミュージカルオペラ「ONATSU」では現代劇・オペラ・ミュージカル・狂言をユニットさせ好評を得る。2004年京都音楽祭オープニングにて京都市交響楽団とのコラボ「金平糖」を手がける。また立川志の輔師匠と共鳴し、満月の夜に「落語と狂言の会」を1年を通して公演。2004年は全国で展開。明快な語り口、柔軟な表現力には定評があり、多くのファンをもつ。FM京都αステーションにて、パーソナリティーを14年間つとめ、最も古い芸能の狂言師が、最も新しい音楽を流しつつ、若者たちへ古典芸能“狂言”の魅力を紹介。そのほか、キャスター、講演、大学講師など、独自の語り口で“狂言”の魅力を伝える。文化庁「子どものための優れた舞台芸術体験事業」に21年度より参加。

◆**監修・考証**
橋本裕之(はしもと・ひろゆき)

早稲田大学大学院文学研究科博士課程芸術学(演劇)専攻中退。博士(文学)。国立歴史民俗博物館民俗研究部助手、ミシガン大学日本研究センター客員教授、アイオワ大学人類学部客員准教授、千葉大学文学部教授、盛岡大学文学部教授などを経て、現在、追手門学院大学地域文化創造機構特別教授・社会学部教授。追手門学院大学附属宮本輝ミュージアムのプログラムディレクターも務める。専攻は民俗学・演劇学。著書に『演技の精神史——中世芸能の言説と身体』(岩波書店)、『目からウロコの民俗学』(PHP研究所)、『心をそだてる子ども歳時記12か月』(講談社)『民俗芸能研究という神話』(森話社)など多数。第11回日本民俗学会研究奨励賞(日本民俗学会)、第1回本田安次賞受賞(民俗芸能学会)受賞。2005年のNHK大河ドラマ「義経」の芸能考証を担当した。また、日本テレビの『世界一受けたい授業』や朝日放送の『ピーパップ！ハイヒール』にも出演している。現在、大阪府市特別参与、岩手県文化財保護審議会委員、岩手県文化芸術振興審議会委員などを務める。千葉大学に在籍していた当時も、新作狂言「新千葉笑い」や創作狂言「千葉の羽衣」などの監修・考証を担当した。

◆**作品あらすじ**
附子(ぶす) 山一つ向うまで出かける主人は、太郎冠者と次郎冠者に留守番をいつけます。主人は二人に桶を見せ、この中には附子という毒が入っていて、その方から吹く風にあたっただけで死んでしまうくらいだから、絶対に近づかないようにと言い置いて出かけます。しかし、だめだと言われると、やってみたくなるのが人情。二人は、こわごわ桶に近づき、中を覗き込みます。すると、中身は附子ではなく、おいしそうな砂糖だったのです。二人は我慢できず、つい砂糖を口にしてみたい、とうとう全部平らげてしまいます。そして、言い訳のために主人秘蔵の掛け軸や、天目茶碗を壊して、大声で泣きながら主人を待ちます。二人は、驚き怒る主人に、わけを話すが・・・。一休さんの頓知ばなしとしても登場する有名な狂言です。

新作狂言「茨木童子」(いばらきどうじ) 作・演出:茂山千三郎／監修・考証:橋本裕之

鬼のはなしを聞こうぞよ	鬼のはなしを聞こうぞよ	いじわるする子に鬼が来る	ばらに悪い悪い鬼が来る	乱暴者には鬼が来る
鬼のはなしを聞こうぞよ	鬼のはなしを聞こうぞよ	きらい言う子に鬼が来る	どこからとも無く鬼が来る	うそをつく子に鬼が来る
鬼のはなしを聞こうぞよ	鬼のはなしを聞こうぞよ	じぶんのところに鬼が来る	出で唸らお	出で唸らお

(ものがたり)
子どもたちと楽しく歌い舞う茨木童子は、自分の昔を話しながら、子どもたちに教えるを説く…今は良い鬼となりました。またこのまちに、茂山童司という親の言うことを聞かない横暴な少年が居り、爪を切れと言われても「いや」顔を洗えと言われても「いや」仕事を手伝えと言われても「いや」と何一つ言うことを聞かない悪い子。茨木童子が攫(さら)いに来るぞと言われれば「わしは茂山童司じゃ。茨の木はどこに生える?茂った山ではないか?茂山童司は茨木童子より強い!」と屁理屈を吐く。困った親は茨木童子に助けを求めると、茨木童子は恐い鬼の姿で叱りに来るのですが・・・

◆**日時**
平成25年10月20日(日) 1回目=13:00開演(12:30開場)／2回目=17:00開演(16:30開場)＊各回定員180人

◆**会場**
真宗大谷派 茨木別院本堂 (茨木市別院町3-31／阪急茨木市駅から西へ徒歩3分／駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。)

◆**チケット**
一般3,000円／65歳以上、障害者及びその介助者は2,500円／青少年(24歳以下)は1,000円
＊茨木市観光協会、茨木市勤労者互助会、OSAKAメセナカード各会員は10%引き。各会員割引の取扱いは文化振興財団窓口のみです。
＊就学前のお子様はご遠慮ください。
＊全席自由(整理番号付チケット)。整理番号順の入場となります。整理番号は、窓口での発券順に付番されます。

◆**発売日**
8月1日(木)9:00 インターネット・電話予約開始
＊財団の発売初日はインターネット・電話予約のみです。残席がある場合は翌日から窓口販売いたします。

◆**チケットのお申込み・お問合せ**
(公財)茨木市文化振興財団・文化事業係072-625-3055 (ユーアイホール1階9:00～17:00)
インターネットチケット www.ibabun.jp
＊予約後は1週間以内に下記のチケットカウンターでご精算ください。チケットの引取り・窓口販売は発売翌日からです。
●ユーアイホールチケットカウンター9:00～17:00(8/17～8/19は臨時休館) ●クリエイトセンターチケットカウンター9:00～17:00(8/17～8/18は臨時休館)
◆**その他の販売所**(8月1日店頭販売有り10:00～)
ローソンチケット0570-000-777／Lコード予約0570-084-005(Lコード55029)＊ローソン各店舗で購入できます。
電子チケットぴあ0570-02-9999(Pコード429-365)＊セブンイレブン、サークルK、サンクス各店舗で購入できます。



茂山千五郎



茂山千三郎



茂山童司



丸石やすし



松本 薫



井口竜也



鈴木 実

子どものための狂言ワークショップ「狂言師がやってきた!」参加者募集

感受性豊かな子どもたちと伝統芸能との幸せな出会い。「狂言」を通じて、日本の伝統を身近に感じてもらうためのワークショップです。

◆**対象・定員** 小学1年～4年の児童40人。保護者同伴でご参加ください。
◆**講師** 大蔵流狂言師 茂山千三郎・鈴木 実
◆**開講日時** 9月1日(日)14:00～16:00
◆**開講場所** 茨木市市民総合センター(クリエイトセンター)2階・多目的ホール
◆**受講料** 無料
◆**準備物** 動きやすい服装で、靴下または足袋を着用してご参加ください。
◆**お申込み・お問合せ** (公財)茨木市文化振興財団・文化事業係072-625-3055(市民会館ユーアイホール1階9:00～17:00) 8月1日(木)9:00から先着順に受け付けます。(電話またはご来館)
◆**備考**
1)受講者の中から、新作狂言「茨木童子」(10月20日実施)に出演いただく児童4人、「お練り」(10月19日実施)の先導役として協力いただく児童20人を選抜いたします。選考は、作・演出の茂山千三郎が行います。選抜児童の稽古、出演日程は以下のとおりです。
① 9月 8日(日)18:00～20:00／稽古(クリエイトセンター)
② 9月22日(日)18:00～20:00／稽古(クリエイトセンター)
③10月13日(日)14:00～16:00(+補修時間)／稽古(クリエイトセンター)
④10月19日(土)13:00～14:30「お練り」(茨木市市民会館～茨木市市民会館～茨木市市民会館)
⑤10月20日(日)午前=リハーサル／13:00～15:00 1回目公演／17:00～19:00 2回目公演(茨木別院本堂)
2)10月19日のお練りには、それぞれ鬼の仮装をして参加します。保護者の方も一緒に鬼の仮装にてご参加ください。また、お練りには一般公募の方も加わります。

新茨木童子の誕生を祝う「お練り」参加者募集

10月20日は新作狂言「茨木童子」お披露目の日。新しい茨木童子の誕生を祝って、前日には茨木の小さな鬼たちがまちを練り歩きます。

小鬼たちを囃したてるのは、新茨木童子の生みの親、狂言師茂山千三郎。

さあ、みなさんも鬼になって練り歩きましょう。鬼になって祝いましょう。新茨木童子が誕生する、今日は「鬼の日」。

◆**実施日時** 10月19日(土)13:00～14:30頃
◆**集合・解散場所** 茨木市市民会館(ユーアイホール)1階ドリームホール 12:30受付開始／14:30終了予定
◆**予定経路** 茨木市市民会館→高橋→茨木神社→茨木阪急本通商店街→茨木にぎわい亭→茨木別院→市民会館
◆**対象・定員** 「鬼」の仮装・メイク等をしていただくことにより、どなたでもご参加いただけます。申し込み先着100人。
◆**お申込み・お問合せ** (公財)茨木市文化振興財団・文化事業係072-625-3055(市民会館ユーアイホール1階9:00～17:00) 8月1日(木)9:00から先着順に受け付けます。(電話またはご来館)
◆**費用** 参加費無料。ただし、仮装等に要する費用は参加者のご負担です。参加者にはもれなく「茨木童子携帯ストラップ」を進呈します。
◆**ご留意いただきたいこと**
1)参加者は、自らがイメージする「鬼」を表現した仮装・メイク等でご参加ください。創作の衣裳でなく、「いばらき童子」キャラクターのお面をつけるということでも結構です。また、拍子をとるための楽器や道具(拍子木、チャップ等)を持参いただいても結構です。ただし、公序良俗に反するもの、周囲に危害を及ぼすおそれのあるもの、臭気を放つもの、裸火を使ったもの、動力を利用したもの、自立して歩けないもの、その他この企画にふさわしくないと判断されたものは、参加をお断りする場合があります。
2)小学生以下のお子様は、必ず保護者同伴でご参加ください。
3)お練りの様子は主催者により撮影し、記録写真や動画は、主催者の情報誌、ホームページ、フェイスブック等において公開される場合がありますので予めご了承ください。
4)市民会館に着替えのための部屋を用意しておりますが、仮装のままご来館いただいても結構です。着替え部屋:市民会館3階和室1(女性)、4階和室2(男性)、11時から使用できます。
5)気象状況によっては、中止または内容を変更する場合があります。実施が危ぶまれる場合は、財団ホームページで対応を発表しますのでご確認ください。または、お電話でお問合せください。

鬼の日「仮装写真コンクール」作品募集

「お練り」当日の仮装写真を募集しコンクールを行います。

優秀作品には記念品の贈呈もごしますので奮って応募ください!

◆**応募方法** ①お練り当日のご自身の仮装写真1点(添付データとして) ②氏名 ③住所 ④電話番号を、件名「鬼の日仮装写真コンクール応募」として送信してください。[送信先]ibabunzai@proof.ocn.ne.jp(茨木市文化振興財団代表) [応募期間]10月19日(土)～10月21日(月)
◆**審査** 茨木市文化振興財団のFacebookページに、応募いただいた仮装写真を掲載し、ページを閲覧いただく不特定多数の皆様にお気に入りの写真への「いいね」で投票していただきます。お一人で複数写真への投票も可とします。
Facebookアカウント名:公益財団法人茨木市文化振興財団 [投票期間]10月23日(水)～10月30日(水)9:00
◆**発表と記念品** 投票の結果は、財団のFacebook ページ、ホームページで発表します。上位3人の方には以下のとおり記念品をお贈りします。
1位:茨木市ハッピー商品券10,000円分 2位:茨木市ハッピー商品券7,000円分 3位:茨木市ハッピー商品券3,000円分